

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成</p>	<p>(成果)</p> <p>1 京都大学2名、大阪大学5名をはじめ、神戸大学5名、名古屋大学1名、九州大学1名、京都市芸繊維大学5名など、国公立大学に103名が合格し、さらに国立医学部医学科に1名、関関同立に現役で85名（のべ人数）が合格するなど、多数合格した。本校の進路指導の実績を積み上げることができた。（合格者数は現役生のみ）</p> <p>2 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業の共同実施校の指定を受け、鳥羽高校と交流や大学教授による英語の講義を受ける等グローバル人材育成の取組をすることができた。</p> <p>3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校の取組として、今年度新たに京都府北部の3校で地元地域において成果発表の機会を設け、多くの生徒が発表し他校と交流することもできた。</p> <p>4 部活動ではコロナ禍の影響が大きかったが、部活動加入率は86.1%と高く、近畿大会や全国大会で素晴らしい活躍する生徒もあった。</p> <p>5 Webを活用して学校外の機関等と連携する実践を積み重ねることができた。</p> <p>6 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習など、学年部と進路指導部、教科担当を中心に学校全体で取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 新学習指導要領への対応と、高大接続改革に対応した授業改善に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な取組をさらに加速させる。</p> <p>2 前期選抜（普通科4.0倍、文理科学科1.2倍）は募集定員を上回る高倍率となったが、普通科の中期選抜では志願者が定員を満たさなかった。本校の魅力をしっかり伝え、生徒募集体制を充実させる必要がある。</p> <p>3 ICT活用では、プロジェクトの効果的な利用やタブレット一人一台に向けての準備を進めて行く必要がある。</p> <p>4 教職員の働き方改革を進め、業務改善の実行と部活動運営の適正化を図り、魅力ある職場で子どもたちに豊かな教育ができるように努める。</p>	<p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(3) 自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。</p> <p>2 特色ある取組の充実</p> <p>(1) 普通科のみらい考や文理科学科のみらい学をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、主体的に課題解決に取り組む姿勢を養う。</p> <p>(2) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業共同実施校として、海外の大学等との連携など国際理解教育の機会を充実させ、グローバル人材の育成を図る。</p> <p>(3) 医学進学プログラムや教員養成プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、進路意識を高める。</p> <p>3 豊かな心を育む教育の実現</p> <p>人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にすること、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成する。</p> <p>4 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>6 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域連携やボランティア活動等を通して、自分たちが将来地域や社会を支えることを自覚させ、使命感を持たせる。</p> <p>7 中高一貫教育の推進</p> <p>中高6年間を見据えて資質・能力の育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題															
組織・運営	令和4年度からの新学習指導要領や情報端末の導入に対応し、組織的な授業改善に取り組む。	<p>新学習指導要領を踏まえ、情報化やグローバル化に対応した教育の在り方について十分な検討を行い、次年度導入に対応する。ICTを積極的に活用し、授業改善に努める。</p> <p>[ICTを授業等で積極的に活用したという割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下									
	A	B	C	D															
	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下															
<p>教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、各分掌・教科、個人が互いに連携し、積極的に取り組む。</p>	<p>学習や生徒指導、学校運営等において、教科や分掌で連携を進め、OJTやPDCAを意識しながら教育活動の改善を行い、個々の教職員の資質と能力の向上を図る。</p> <p>[自己の資質・能力が向上したと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>69～50%</td> <td>39～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>[分掌間や教科内の連携が充分行えたと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>69～50%</td> <td>39～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	69～50%	39～25%	24%以下	A	B	C	D	70%以上	69～50%	39～25%	24%以下		
A	B	C	D																
70%以上	69～50%	39～25%	24%以下																
A	B	C	D																
70%以上	69～50%	39～25%	24%以下																
本校の魅力を高め、積極的・効果的に発信する。	<p>充実した授業や課外活動、特色ある取組により本校の魅力を一層高める。学校説明会や広報紙、HPにより、本校の特色・魅力を積極的に伝える。</p> <p>[本校の特色・魅力が高まったと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～50%</td> <td>49～30%</td> <td>29%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～50%	49～30%	29%以下										
A	B	C	D																
80%以上	79～50%	49～30%	29%以下																
教務部	学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。	<p>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。優れた指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。</p> <p>[授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均]</p>																	

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下										
A	B	C	D																	
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下																	
	<p>令和4年度からの新教育課程の編制および観点別評価、ICT活用に向けての準備を進める。</p>	<p>校内の全体研修を通して共通理解を図り、各教科での研究を推進して、より良い準備ができるようにする。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>十分に検討できた</td> <td>検討できた</td> <td>あまり検討できなかった</td> <td>検討できなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	十分に検討できた	検討できた	あまり検討できなかった	検討できなかった										
A	B	C	D																	
十分に検討できた	検討できた	あまり検討できなかった	検討できなかった																	
	<p>個に応じた指導を大切にし、単位不認定をなくす。</p>	<p>丁寧な学習方法の指導や個に応じた指導を進め、成績不良による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。 [成績不良による単位不認定者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～2人</td> <td>3～4人</td> <td>5人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～2人	3～4人	5人以上										
A	B	C	D																	
0人	1～2人	3～4人	5人以上																	
生徒指導部	<p>安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的マナー意識(身だしなみ等)の向上を図る。</p>	<p>【遅刻指導】学年団と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。 【身だしなみ指導】全教職員で協力し、制服のボタンを留める指導を徹底する。 [学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』における『よくあてはまる・あてはまる』の生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>学年集会や生徒部だより等を利用して、携帯情報端末利用に関する啓発活動を積極的に行う。 [啓発活動の回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>8・9回</td> <td>6・7回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	A	B	C	D	10回以上	8・9回	6・7回	5回以下		
A	B	C	D																	
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下																	
A	B	C	D																	
10回以上	8・9回	6・7回	5回以下																	
	<p>学校生活が安心、安全なものとな</p>	<p>交通事故を防止するために、ヘルメット着用の</p>																		

るよう、特に交通安全について意識の向上を図る。

推奨を含めた安全意識を高める啓発活動を継続的に行う。
[学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値]

A	B	C	D
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下

「5K力」の育成のため、特別活動（生徒会活動・部活動・ボランティア活動）の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。

生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。
コロナ禍でできることを模索し、なるべく多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。
[学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値]

A	B	C	D
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下

進路指導部

生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。

第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る
[4月実施の進路希望調査で国公立大学を志望した生徒の合格率]

A	B	C	D
60%以上	50%以上59% 未満	40%以上49% %	40%未満

1、2年生の進路意識を向上させる。

夢を抱いて頑張る生徒を育成する。
[11月実施の1・2年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合]

A	B	C	D
0～3%未満	3%以上5% 未満	5%以上7%未 満	7%以上

保健部

生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の

生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけ

向上を図る。

んだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。

新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。

健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。

[歯科 要治療生徒の受診率]

A	B	C	D
20%以上	19～15%	14～10%	10%未満

環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。

教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にを行い、校内の衛生管理に努める。

保健委員による教室の衛生管理、清掃点検、安全点検等の活動を定期的に行う。

[保健委員の年間活動回数]

A	B	C	D
20回以上	19～15回	14～10回	10回未満

人権教育部

様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。

学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。

[学校評価アンケート
保護者全員の人権学習に対するプラス評価平均]

A	B	C	D
80%以上	75%以上	70%以上	70%未満

各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。

援護制度について、広報や説明会を充実させる。

[お知らせメール及びホームページの活用]

A	B	C	D
8回以上	7～5回	4～2回	1回以下

教職員の人権意識の高揚を図り、

教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の

指導力の向上に努める。

向上を図る。

[教職員人権研修の実施]

A	B	C	D
3回	2回	1回	0回

[人権教育推進会議及び合同部会の実施]

A	B	C	D
9回以上	8～6回	5～3回	2回以下

総務企画部

本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページによる情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福高タイムズ)の発行、ホームページの更新等に努める。

在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。

[学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等 広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)]

A	B	C	D
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満

ホームページや学校案内、広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、本校全体の志願者の増加を目指す。

[前期選抜(文理科学科)の志願者数]

A	B	C	D
50人以上	45人以上	40人以上	40人未満

分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。

部会を定期的に行い、また日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。

[分掌会議の実施回数(作業を除く)]

		A	B	C	D												
		40回以上	35回以上	30回以上	30回未満												
みらい探究部	<p>京都WWLの共同実施校（2年目）として、イノベティブなグローバル人材の育成に関する取組を積極的に行い、生徒が主体的に学ぼうとする意欲や、学ぶ楽しさを味わわせる。</p>	<p>ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム構築支援事業（WWL）の取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、生徒が国際社会で生き抜く力を育てる。 [参加生徒の満足度]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満				
	A	B	C	D													
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満													
<p>普通科の総合的な探究の時間「みらい考Ⅱ」（新規）について、週1時間の学習計画を立て、PDCAサイクルを回してスタイルを完成させるとともに、「みらい考Ⅰ」の深化、ⅠⅡの繋がりを持たせる。</p>	<p>前年度のみらい考Ⅰをベースに、普通科の探究的な学習の時間の内容を計画・実施し、課題設定力・課題解決力・表現力の育成を組織的・系統的に実施する。 [生徒が自身のキャリアに繋がったと感じた人数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>80%以上</td> <td>80%未満</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満					
A	B	C	D														
90%以上	85%以上	80%以上	80%未満														
<p>文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学Ⅰ」「みらい学Ⅱ」を通して「課題研究リテラシー」の向上を図るとともに、研究内容の充実・深化をはかり、外部発表や課題解決の実現に向けた『行動する力』を重視する。</p>	<p>課題研究に必要なスキル（研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等）を身に付けるプログラムを工夫・改善する。さらにできるだけ多くの外部発表を行い、研究成果を外部に発信する。 [外部発表、実現に向けて行動した数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5つ以上</td> <td>3つ以上</td> <td>1つ以上</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	5つ以上	3つ以上	1つ以上	0					
A	B	C	D														
5つ以上	3つ以上	1つ以上	0														
図書視聴覚部	<p>読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。</p>	<p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 [授業での図書館活用回数（みらい学を除く）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80回以上</td> <td>70～79回</td> <td>60～69回</td> <td>59回以下</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	80回以上	70～79回	60～69回	59回以下				
	A	B	C	D													
80回以上	70～79回	60～69回	59回以下														
<p>P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。</p>	<p>P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動につ</p>																

		<p>いて「お知らせメール（さくら連絡網）」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。</p> <p>[保護者対象学校評価アンケートのPTA活動に対するプラス評価]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>65%以上</td> <td>60～64%</td> <td>55～59%</td> <td>55%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	65%以上	60～64%	55～59%	55%未満		
A	B	C	D									
65%以上	60～64%	55～59%	55%未満									
第1学年部	互いに認め合える学年集団の形成	<p>常に相手の気持ちを考えて、他者を思いやる行動を取るよう促す。</p> <p>お互いが認め合える学年形成を目指し、学年アンケートを実施する。</p> <p>[第1学年アンケート満足度の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～90%</td> <td>89～85%</td> <td>84%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～90%	89～85%	84%以下		
A	B	C	D									
95%以上	94～90%	89～85%	84%以下									
	自らの希望進路目標を見据え、意欲的に行動する	<p>個人面談を重視し、進路目標を明確化させる。</p> <p>[第2回進路希望調査-11月での進路未定者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～5人</td> <td>6～9人</td> <td>10人以上</td> </tr> </table> <p>評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	0人	1～5人	6～9人	10人以上		
A	B	C	D									
0人	1～5人	6～9人	10人以上									
	学校行事やクラス活動、部活動に積極的に参加し、互いを高め合える態度を育てる	<p>挨拶を奨励し、日常的なマナーを身につける、コミュニケーション能力を涵養する。</p> <p>学校行事や部活動、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</p> <p>[学校行事やクラスの取組に協力的に参加したと思った生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～70%</td> <td>69%～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下		
A	B	C	D									
100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下									
第2学年部	基本的な生活習慣を確立させると	家庭学習時間を確保し、確かな学力をつけさせ										

ともに、主体的に学習に取り組む態度を養成する。

る。
模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立て、入試に向けての意識を高めさせる。

[1月進研模試の学年全体の平均偏差値(英・数・国)]

A	B	C	D
60以上	59.9～55	54.9～50	50未満

[1月進研模試A3以上の人数(英・数・国)]

A	B	C	D
81人以上	80～66人	65～50人	50人未満

自己理解を深め、バランスのとれた学力を身につけさせるとともに、進路に対する意識を喚起させる。

オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促し、進路目標を具体化させる。
個人面談、進路検討会を充実させ、進路意識の高揚をはかる。

[具体的な進路目標を持っている生徒の割合]

A	B	C	D
100%	99～90%	89～80%	80%未満

学校行事、クラス活動、部活動に積極的に参加し、集団をまとめる力を養う。

学校行事、クラス活動、部活動への積極的な参加を促し、集団の中での自分の役割を理解するとともに、常に相手の気持ちを考えた行動を取らせる。

ボランティア活動への積極的な参加を促す。

自分の考えを他者にわかりやすく表現する力を養う取組を重視する。

[学校評価において、「学校行事は充実したものになっている」の項目に対して肯定的評価をした生徒の割合]

A	B	C	D
90%以上	89～80%	79～70%	70%未満

第3学年部

基礎的な学力を定着させ、思考力・判断力・表現力を更に向上させる。

自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。
模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てる。

		<p>てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。</p> <p>[学年全体の6月進研共通テ模試平均偏差値(英・数・国)]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>58.0以上</td> <td>55.0以上</td> <td>52.0以上</td> <td>52.0未満</td> </tr> </table> <p>[6月進研共通テスト模試A3以上の人数の平均(英・数・国)]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>130人以上</td> <td>100人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満	A	B	C	D	130人以上	100人以上	70人以上	70人未満		
A	B	C	D																	
58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満																	
A	B	C	D																	
130人以上	100人以上	70人以上	70人未満																	
	<p>進路目標を明確に持たせ、希望進路の実現に向けて主体的・計画的に行動させる。</p>	<p>生徒との面談に重点を置き、関係分掌や教科担当者との連携を密にして、生徒の希望進路実現を図る。</p> <p>[進路希望調査(4月)で国公立大を志望した生徒の国公立大合格率]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59~50%</td> <td>49~40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	40%未満										
A	B	C	D																	
60%以上	59~50%	49~40%	40%未満																	
	<p>学校生活の様々な場面で、主体的に自己の役割を果たす態度を育てる。</p>	<p>学校行事をはじめ、クラスでの活動や部活動に、主体的かつ積極的に関わらせる。</p> <p>集団の中での自分の能力や適性を把握させ、チームの一員としての自己の役割を果たさせる。</p> <p>活動の際には、常に他者を思いやりつつ協働させる。</p> <p>[諸活動の中で、自己の役割を見つけ、果たせたと評価した生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~40%	40%未満										
A	B	C	D																	
80%以上	79~60%	59~40%	40%未満																	
事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。</p> <p>[危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~70%</td> <td>69~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満										
A	B	C	D																	
90%以上	89~70%	69~50%	50%未満																	
	<p>学校経営方針を推進するため各</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のあ</p>																		

	分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。	<p>る予算執行を行う。学校経営を推進し本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。</p> <p>[教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
A	B	C	D																	
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満																	
	丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。	府民との窓口になる対応を丁寧、的確及び迅速に行い、円滑な学校運営に努める。																		
国語科	<p>主体的・対話的で深い学び (AL) からの授業改善をいっそう推進すべく、指導方法の改善に努める。</p> <p>また、ICTの授業での有効活用に努める。</p>	<p>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、ICTの有効活用や教科指導力の向上を目指す。</p> <p>[研修会等への年間参加回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>16回以上</td> <td>12回以上</td> <td>8回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	16回以上	12回以上	8回以下										
A	B	C	D																	
20回以上	16回以上	12回以上	8回以下																	
	生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力の定着を図る。	<p>基本的語彙力の定着を目指して、小テスト等に真剣に取り組ませる。</p> <p>[漢字・現代文語彙テスト 学年平均点80%以上の学年]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table> <p>[古文単語テスト 学年平均75%以上の学年]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし		
A	B	C	D																	
3学年	2学年	1学年	なし																	
A	B	C	D																	
3学年	2学年	1学年	なし																	
地歴公民科	進路実現のための学力向上と社会的役割の自覚に向けて、自立学習を確立させ、物事を主体的に考える力の育成に努める。	<p>社会の事象を主体的に考察するための根幹となる学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。</p> <p>[3年生大学入学共通テスト平均の対全国平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+8点以上</td> <td>+6点以上</td> <td>+4点以上</td> <td>+3点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満										
A	B	C	D																	
+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満																	
		生徒が現代社会全体に関心を持てるように、政治・経済・文化などとの関わりを実感させ、主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進め																		

		<p>る。</p> <p>[発展的な課題発見授業・講演会・土曜講座等の実施数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>6・5回</td> <td>4・3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	6・5回	4・3回	2回以下																			
A	B	C	D																										
7回以上	6・5回	4・3回	2回以下																										
	<p>生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を積極的に進めるとともに、ICTを活用した効果的な指導力の向上に努める。</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現とともに、ICTを活用した効果的な指導方法の確立に向けてのテーマで研究授業を実施し、研究協議を行う。</p> <p>[テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7回	6回	5回以下																			
A	B	C	D																										
8回以上	7回	6回	5回以下																										
数学科	<p>主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。</p>	<p><1年生> 学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。</p> <p>[全員模試の平均偏差値の差(1月-7月)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3~0</td> <td>0~-3</td> <td>-3未満</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p><2年生> 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。</p> <p>[全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3~0</td> <td>0~-3</td> <td>-3未満</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p><3年生> 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。</p> <p>[大学入学共通テスト 数学IA 対全国平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4点以上</td> <td>4~2点</td> <td>2~0点</td> <td>0点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	4点以上	4~2点	2~0点	0点未満			
A	B	C	D																										
3以上	3~0	0~-3	-3未満																										
A	B	C	D																										
3以上	3~0	0~-3	-3未満																										
A	B	C	D																										
4点以上	4~2点	2~0点	0点未満																										
	<p>学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。</p>	<p>ICTの活用についての交流を図る。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>図れた</td> <td>まあまあ図れた</td> <td>あまり図れなかった</td> <td>図れなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった																			
A	B	C	D																										
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった																										

理 科	<p>各生徒の希望進路の実現に向け、基礎学力の定着並びに思考力、判断力、表現力の育成に努める。</p>	<p>基礎学力を確実に定着させ、生徒全員の進路保障に努める（3年生）。また積極的な授業改善や個に応じた指導内容の工夫を行い、希望進路に応じた学力の充実に努める（1・2年生）。</p> <p>[大学入学共通テストの全国平均点との差]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>9点以上</td> <td>5点以上</td> <td>3点以上</td> <td>3点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	9点以上	5点以上	3点以上	3点未満			
	A	B	C	D									
9点以上	5点以上	3点以上	3点未満										
		<p>生徒が主体的に考え話し合い表現する場面を効果的に設定し、大学入学共通テストにも対応した「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。また、観点別評価、ICT活用に向けての準備を進める。</p> <p>[教科会議で観点別評価・ICT活用について検討した回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>5回以上</td> <td>3回以上</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	5回以上	3回以上	2回以下			
A	B	C	D										
7回以上	5回以上	3回以上	2回以下										
	<p>「スーパーサイエンスネットワーク京都」指定校としての取組を生かした本校独自の科学研究プログラムを推進する。</p>	<p>外部機関主催の科学コンテストやフェスティバル、校内における特別講義や各種研究活動等への参加協力体制を組む。</p> <p>[各事業に対する平均生徒満足度（4段階）]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.7以上</td> <td>3.4以上</td> <td>3.1以上</td> <td>3.1未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満			
A	B	C	D										
3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満										
保健体育科	<p><体力の向上を図る></p> <p>本校生徒の体力は、京都府平均と比較しても、筋力・柔軟性について劣る傾向があるため、体育授業及び体育的行事により体力の向上を目指す。</p>	<p>年間を通して体力向上をねらいとし、補強運動やトレーニング的な動作及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。</p> <p>[各学期の授業時において、上体起こしを測定（1・2年男女）し、4月のスポーツテスト時から上昇した人数割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>～50%</td> <td>49～40%</td> <td>39～30%</td> <td>29%～</td> </tr> </table>	A	B	C	D	～50%	49～40%	39～30%	29%～			
A	B	C	D										
～50%	49～40%	39～30%	29%～										

＜健康・安全教育の推進＞
 体育及び体育的行事中の事故を防止し、自己管理能力育成を図る。

体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全に対する意識の高揚を図る。

[1年間の事故件数(通院を伴うもの)]

A	B	C	D
～10件	11～20件	21～30件	31件～

＜運動部活動の活性化＞
 運動部活動への加入率上昇を目指し、体力の向上とともに質の高い集団づくりから、心と体の一体化を目指す。

運動部員の意識を高めるために、体育的行事(球技大会・耐久レース・体育祭)をはじめ、日常生活における挨拶や礼儀等を身に付ける。

[年間運動部集会の回数]

A	B	C	D
～6回	5回	4回	3回～

芸術科

芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対する理解を深め、豊かな情操を養う。

＜音楽＞授業時や芸術文化展など発表の機会を設定し、器楽・歌唱等自らの演奏能力・表現能力を高める。

[発表の回数]

A	B	C	D
5回以上	4回	3回	2回以下

＜美術＞鑑賞・表現の授業改善を行い、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。

[4月に美術鑑賞に興味がないと回答した生徒が2月に興味があると回答した割合]

A	B	C	D
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下

＜書道＞主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。

[授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合(回答4)]

		A	B	C	D		
		75%以上	65～74%	55～64%	54%以下		
英語科	多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。	家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。 [3年生共通テスト平均点の全国平均値との差] ＊リーディング100点＋リスニング100点の計200点満点					
		A	B	C	D		
		+16点以上	+15～8点	+7～0点	マイナス		
	英語4技能の向上に資するため、アクティブラーニングの視点から授業改善に取り組む。	新学習指導要領、大学入学共通テスト、英語4技能外部試験に向けて体系的に指導をするため、教科内で一致して研修を進める。					
		A	B	C	D		
		十分に達成できた	ほぼ達成できた	達成度が不十分だった	全くできなかった		
	Wi-Fi環境の充実やプロジェクターの設置に伴い、ICT教育に対して積極的に取り組む。	授業の中で、ICT機器を有効に活用する。					
		A	B	C	D		
		十分に活用できた	ある程度活用できた	活用が不十分だった	全くできなかった		
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。	授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図るとともに5K力に基づいた振り返りを行う。 [5K力に基づいた振り返りの実施回数(割合)]					
		A	B	C	D		
		90%以上	80～89%	70～79%	69%以下		
		「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。 [意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)]					
		A	B	C	D		

		90%以上	80～89%	70～79%	69%以下												
情報	<p>情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用ができる能力を養うとともに、受け手の状況などを踏まえた発信、伝達社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる。</p> <p>また、新課程に向けて、大学入学共通テストの教科「情報」への対応を踏まえた教科研修を実施する。</p>	<p><1年生> 社会と情報（普通科） みらい情報（文理科学科）</p> <p>(1)情報の活用と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の特徴とメディアの意味、デジタル化された情報を統合的に扱えること、および情報の表現と伝達の方法を習得させる。 <p>(2)情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション伝達の手段の発達、ネットワークの仕組みと活用方法を理解させる。 <p>(3)情報社会の課題と情報モラル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化が社会に及ぼす影響、情報セキュリティの確保、情報社会における法と個人の責任を理解させる。 <p>(4)望ましい情報社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における情報システム、情報システムと人間、情報社会における問題の解決について考えさせる。 <p>[スキルを習得したと回答した生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><教員研修></p> <p>サンプル問題をもとに、数学科・情報科の教員での研修をおこない、指導計画等の検討をする。</p>				A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	59%以下				
A	B	C	D														
80%以上	70～79%	60～69%	59%以下														
学校関係者 評価委員会 による評価																	
次年度に向けた改善の 方向性																	